アタック ATAC News
2016.2 Vol.53
一般財団法人　大阪科学技術センター
季刊
ATAC事務局
〒550-0004
大阪市西区靭本町1−8−4
一般財団法人 大阪科学技術センター
技術振興部
06−6443−5323
06−6443−5319
発行人：梶原　孝生

ＡＴＡＣ創設２５周年の年を迎えるに当って

一般財団法人　大阪科学技術センター
ATAC 運営委員長　梶原 孝生

中小企業の技術支援をするATACが１９９１年に大阪科学技術センターの事業として創設され、今年で２５年が経ちました。本年の９月２９日（木）に大阪科学技術センターで設立２５周年の感謝をこめた記念講演会を開催します。詳しいご案内は追ってお届けしますが、とりあえず、ご参加の予定をおくみいただけたら幸甚に存じます。

世の中の企業では設立５０年や１００年は珍しいものではなく、４００年を超える企業も見受けられます。しかし、大企業を定年退職してそれ迄の経験、培ったノウハウなどを活かして中小企業を支援するコンサルティング活動の組織としては、２５年は最も古いのではないでしょうか。

現在、ATACのメンバーは２３名ですが、その中には２名の創設時からのメンバーも残っています。この２名が創設時のATACの創設基本概念をあとから参加したメンバーに常に伝える努力を続けています。

ATACの創設の基本指針は、まず中小企業の技術支援を通じて、自分たちが長年培ってきた技術の経験、ノウハウなどを活かして中小企業のさらなる発展に貢献し、今まで自分たちが受けてきた社会からの恩恵の恩返しに励む、支援はまず現場に入り現場現物主義を通しての技術の伝承に努力するというものでした。

お陰様で、この２５年間で、支援件数は約７００件にも達し、多くの中堅・中小企業からその実績を認めて頂いて今日に至っております。

世の中にはベンチャー企業で空前の発展を重ね、今ではゆるぎない企業になっている実例を数多く見ることが出来ますが、その多くは創業時のメンバーの必死の努力が生み出した成果であることは間違いありません。ところが、創業時の苦しさを乗り越えて発展してきた後に入った社員には、その創業時の苦労は聞くだけのものであって、肌身で経験したものではない為に、迫力が今一つ欠ける事例が数多く見受けられます。

ATACも２５年を経過して、新たな次の２５年に向かっているときに、このことをよく考える必要があると思われます。

新生ＡＴＡＣは、創業時の精神を受け継ぐと同時に、また新たな理念での発展も望まれるところでしょう。継続は力なりという言葉にもあるように、新たな理念での発展を期そうではありませんか。

そのためには、ATACの周囲の皆様のご支援、ご鞭撻も重要になってくるでしょう。従来から色々とご支援、ご指導を賜ってきましたが、これからも新生ＡＴＡＣを更なる企業支援の力となりますよう引き続いてのご支援、ご指導を重ねてお願いするところであります。

第９回 OB活用組織全国会議
－新たなOBの活用をめざして－

ＯＢ活用組織全国会議は、各地で活躍している経験豊かな技術者が集う中小企業支援機関が相互連携のために大阪科学技術センターATACの呼びかけで2007年に発足した。今回は企業組合STEP-21のご尽力で琵琶湖畔のホテルで平成27年11月６日に８機関21名の参加を得て開催した。

1．開会挨拶

ATAC 運営委員長梶原孝生から、「OB活用組織全国会議」は、今までこの会議で各組織が連携することで一定の成果をあげた。今年で９年目となる機会に今後の活動の在り方を本会議の存続も含めてアンケートで忌憚ないご意見を頂戴したい、との話があった。

2．参加機関の活動状況

①企業組合 STEP-21（滋賀）

企業支援事業が減り、社員教育や品質管理、実験計画法の教育などのセミナーが多い。

②NPO 法人ノウハウ会（大阪）

活動指針は社会貢献であるが、常に「社会ニーズにあった活動とは何か」を考えている。コミュニティ活動を重点にしている。

③パワー・マーケティング（大阪）

人材サービス、介護支援サービスを行っている。具体的なニーズはあるが、さまざまニーズに対応できる人材確保が出来ていない。

④NPO 法人プラスチック人材アタッセ(大阪)

プラスチック加工業の経営指導、新商品開発、などの支援を行っている。世の中の技術刷新が速く、会員は常に新しい技術の勉強が必要である。

⑤NPO 法人山口県アクティブシニア協会（山口）

2015年中小企業白書で地域に培われた専門知識技術を持つシニアの力を活用し地域課題解決を図る「人材の地域内循環」の事例として紹介された。

⑥NPO 法人 ATAC・MATE 奈良（奈良）

地域貢献グループを昨年作った。子供への古代技術の紹介を通じて技術への関心を高める活動をしている。若手の新規加入者を募集している。

⑦特定非営利活動法人 ATAC ひろしま(広島)

活動方針は、「成果主義」「現場主義」「チーム主義」。呉市から「ものづくり技術伝承」支援の要望があった。

⑧大阪科学技術センター ATAC（大阪）

月二回全員参加の研究会を実施し、会員のコンサルティングの進捗状況を聞いて指導を行っている。クライアントとの情報交換の場として、社長懇話会や講演会、ATACニュースの発行など行っている。

3．特別報告「上に立つ者の人間学」

講師　STEP-21 専務理事 井上 昌幸 氏

中小企業の中間管理職への人間学の講演会を行っている。論語や、平澤興著「生きよう今日も喜んで」、安岡正篤「人間学」、中江藤樹の言葉などを引用、解説し、「脳力開発」の目的、学び方、具体的活動方法の紹介があった。

4．まとめと交流会

今回の会議では他機関の取り組みで参考になる事例があり、連携の動きもでてきて、有意義であった。会議後の交流会では参加者同士、講師と参加者の間で情報交換が行われた。　（齋藤・長田）

第9回 OB活用全国会議 H271106

会場：ピアザ淡海(大津市)

第9回 OB活用全国会議 H271106

歴史のある企業の見学記

―　日立造船、銭屋アルミニウム製作所　―

ＡＴＡＣでは毎年優れた技術や製品を持つ企業を訪問する一泊研修旅行を行い、メンバーの見聞を広めて日常のコンサルティングに役立てています。昨年（2015年）12月10～11日には舞鶴市、池田市の歴史のある２つの企業を訪問しました。

◆日立造船株式会社　舞鶴工場

舞鶴工場は、1903年の海軍工廠の開設後、1971年に日立造船㈱の工場となりました。現在では、電子制御事業や発電事業等、時代の先端を行く事業を中心に展開しています。

また同敷地内には海軍工廠時代の赤レンガの建物等の多数の‘近代化遺産’が残っています。この中には東郷平八郎が執務した建物が現存しているなど、伝統と歴史の重みを感じる工場でした。

今回はこの中の制御盤と電子ボードの製造工程を見学させて頂きました。顧客の要望に個別に合わせて手作りで製造される制御盤には、懐かしさを覚えながらもデンマークのMANの認証を取得されているなど、時代の先端を行くものづくりに感心し、世界的にも突出した日本の「ものづくり現場」の原点を垣間見ることが出来ました。

◆株式会社銭屋アルミニウム製作所
本社及び池田工場

昭和８年に創業され、アルミプレス技術から開始した銭屋アルミニウム製作所は、金属加工大量生産部門が主力となっており、池田市で基礎技術を完成させた後、中国の子会社で大量生産を行っておられます。

優れた加工技術をベースに、アルミニウムからチタン、ステンレスと素材の幅を広げ、これらの素材の繊細な特徴を最大限に生かしつつ種々の用途に発展していました。特にデジタルカメラ、ノートパソコン、携帯電話の筐体などを製造しており、設計から製品化までを一貫して行う会社として高く評価されております。

今回は筐体を中心にした各種サンプルを見学し、市場からの極めて難易度の高い要求に応え続けておられる高度な加工技術に触れることができました。

日々革新する加工技術をベースに世界の中で躍進されている姿を見学し、これこそ日本の強みだと実感させられました。

（池田（雅）・佐々木）

企業PRコラム

―樹脂フィルムのシーム溶着用高周波ウェルダー製造一筋に26年―

株式会社イズミカンコ　社長 南條 広志

弊社は樹脂シートのシーム溶着に特化した高周波ウェルダー機（溶融接合機）を 26 年間製造してきた国内では数少ないメーカーであります。文具、化粧品、服飾等で樹脂シートを用いた袋状の製品の溶着、樹脂部品の組立に用いられています。樹脂シートの溶着には伝熱式のシーラータイプが用いられることが多いですが、弊社では高周波を用いた誘導加熱方式を採用しています。高周波ウェルダーは①材料内部からの発熱により溶着するため、シート間で分子同士が確実に接着する、②電極の幅に応じた広い溶着幅が得られ、気密性の高い溶着が可能といった利点が多いのが特徴です。

近年、公害対策の観点から塩化ビニールに替わりポリプロピレン、オレフィン系樹脂が多用されるようになってきました。こうした材料の変更に対しても高周波電源の最適化を行い、各種樹脂材料に適したウェルダーの製造を行ってきました。特にこれまで溶着が困難といわれていた大きく材料特性が異なるシートを溶着する技術開発を終え、優れた材料特性を発揮できるウェルダーを開発しました。

2015 年には弊社の技術が評価され大阪府から大阪ものづくり優良企業賞「匠」に認定されました。今後は医療分野、化学工業分野でより多くのユーザー様にご満足をいただける企業として精進していく所存で、2016 年は更なる飛躍への元年として参ります。

［高周波ウェルダーによる加工製品例］

連絡先
株式会社 イズミカンコ
〒594-0004 大阪府和泉市王子町 437-1
TEL　0725-45-3700
FAX　0725-45-3701
URL　http://izumi-kanko.com/

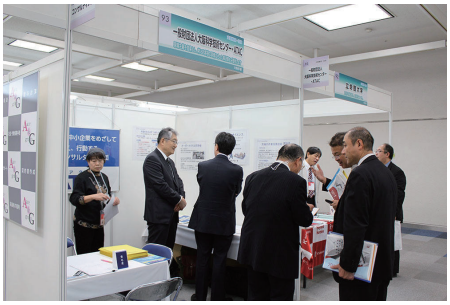
ATAC ひと言

産産学ビジネスマッチングフェア２０１５に出展して

「産産学ビジネスマッチングフェア with 大阪大学」は、1999 年から始まり、今回で 16 回目を迎えました。これまで会場は千里で開催されてきましたが、今回初めてマイドーム大阪の 2 階 3 階展示場を会場として、11/11 ～ 12 の 2 日間の会期で行われました。「大阪経済に元気をもたらす中小企業が結集 !! 」と銘打って、出展企業・機関は、北大阪を中心とした、ものづくりを行う中小企業および大学・支援機関で、約 160 社を数えました。

ATAC は 2003 年から毎回出展していますが、今回もブースを設定し、パネルやポスター、並びに ATAC 出版物の展示を行いました。特に、今回は最近取り組んでいる４つのテーマ、「究極の作業改善技術ＲＷＦ」「ATAC のデータサイエンス」「利益を生み出す！省エネ節電」「オーダーメイド出前研修」のポスター展示を行い、ATAC 活動の中でも広く親しんでもらいたい技術の一端を披露いたしました。

フェア全体では来場者は 6116 名で、ATAC ブースでは、来訪者の内、35 人と名刺交換を致しました。今後コンタクトを継続する件数は 14 件もあり、コンサルティングにつなげて支援したいと考えています。

産産学ビジネスマッチングフェアは、公開の場でひろく ATAC 活動を披露し、多くの企業の方々の声を聴くことができる貴重な交流の場です。このフェアを通して、ATAC の「常に現場、現物、現実主義」をモットーに、多くの企業のお役に立てることをアピールできればと願っております。ご来場の皆々様の貴重なご意見ご要望をお寄せ頂いたことに、深く感謝申し上げます。

（野村記）